

第6回策定委員会 指摘事項と対応方針

資料①

No.	項目	主な意見(ページ番号は第6回資料)	事務局の回答	その後の対応(ページ番号は修正版)
1	2章	P43、「差替え予定」というのはみえつドームシアターの写真を差し替えるということか。	あまり良い写真がなかったため現在の写真になっているが、差し替えたい。	P44 修正した
2		P43、「内容の一部に正確とは言えない情報が含まれているという指摘がある」と記述するのは適当なのか。それに対応した中身にしておくべきではないか。	2章は現状と問題点についての記述である。「内容の一部には改善が必要なものも含まれている」という書き方などに修正する。	P44 文章を削除
3		P20、⑦指定説明は抜粋でなく、全文を掲載した方がいいのではないか。具体的には、P26 (1) 8行目“アイデンティティを形成する上での重要な側面と位置づけられている”とあるが、どこに位置づけられているのかが前段階で本文にないと適当でない。	指定説明については、全体のバランスを見て、15行程度に分量を増やしたものを掲載する。 P26については、三重津海軍所跡管理保全計画書中の文章であり、指定理由書には書かれていない。	P20 修正した
4		P22、下から11行目に“推薦された23の構成資産は…”とあるが、登録された後も「推薦された」という言葉を使うのか。	(内閣官房) 決議文なので変えられないが、推薦された状態で世界遺産が採択するという意味で使っているという注記が必要かもしれない。	P23 注記に「平成27年」と「抜粋」の記載を追加
5		P28、②「史跡の構成要素と世界遺産の構成要素」とあるが、「世界遺産としての構成要素」ということか。7行目の“したがって…世界遺産としての構成要素…”、③その他の有効な構成要素の中の1行目“これまでに…世界遺産としての構成要素…”も合わせて修正が必要。	関連する部分は「世界遺産としての構成要素」という表記に全て変更する。	P28 修正した
6		P28③、みえつSCOPEや三重津タイムクルーズなどの名称は、構成要素の記述のためソフトだとおかしい。意識して書かれているのか。	ソフトもハードも含んだコンテンツということで、構成要素に入ると考えている。	—
7		P31、対岸の農地などを計画に位置づけているが、追加指定予定地の北西部にある農地などは計画に位置づけない理由は何か。	緩衝地帯に入っているが、緩衝地帯の考え方で、農地については、三重津から農地側を見たときに現在建物が建っていないので、当時の葦原を想起させるエリアとして農振法で守ろうとしている。	—
8		P31、バッファゾーンの範囲も入れた方がいいのではないか。	ラインを入れる。	P32 修正した
9		P34、“保存状況の確認”と“保存状態の確認”という言葉が混在している。	文章が重複しているため、“現在は、除草による管理のみを行い、目視による地表面の…保存状態の確認を行っている”に修正する。	P35 修正した
10		P55、(5) 管理運営に関する現状と問題点について、世界遺産課と文化財課があり、河川事務所との連絡体制などで管理上問題になることは無いのか。	最低限の組織体制づくりはできている。詳しくはP105、9章で記載しているが、(5)中にも必要であれば、検討の上記載する。	P55 推進体制についての問題点を追記した
11		P38、本質的価値に準ずる要素に史跡指定地外の石碑の写真は載せないのか。	掲載する。	P39 掲載した
12		P48の注意喚起サインは河川事務所と佐賀市のどちらが設置したのか。	佐賀市が公園管理として設置している。	—

第6回策定委員会 指摘事項と対応方針

資料①

No.	項目	主な意見(ページ番号は第6回資料)	事務局の回答	その後の対応(ページ番号は修正版)
13		P32、史跡としての本質的な価値を中央に置きながら、周辺にあるものの位置づけを考えるうえで、Eの用語に公園や漁港という具体的な名前が出るのは違和感がある。保存・活用以外の用途に資する要素、その他の要素、その他の用途に資する要素などにしてはどうか。	公園や漁港は史跡の整備・活用の対象になるのではないかとこの考えであえて入れている。表現については委員長と事務局で調整する。	P33 「その他の用途に資する要素」とした
14		P56、(1)の最後の行、“日本の近代化を考える上で極めて歴史的価値が高いものであり”とあるが、「極めて」というと特別史跡レベルのようである。表現は適切なものか。	再度検討する。	P57 「極めて」を消去した
15		P56、幕末佐賀藩関連遺産について、「個々の保全」に加え、「一連のつながりのあるものとしての保全」についても記載した方がよい。	文章の整理をする。	P57 「佐賀市重要産業遺跡」として平成21年度から調査を実施していることを記載した
16		P57、③精錬方跡は、理化学研究所という固有名詞のようなので、表現を工夫した方がいい。精錬方跡なので「理化学研究所の跡」と言わないといけない。	修正する。	P58 「言わば理化学研究所の跡である」に修正した
17		P58、3行目“資源を活用・連携すること”は、「資源の活用・ネットワーク化」と言い換えてはどうか。	修正する。	P59 「これらの観光資源を活用した周遊促進の取組」という表現に修正した
18		P59、③1行目“遺跡において、何をどのような理由で保存すべきなのかを見極めるためには、…欠かせない。”について、史跡になっているので保存する理由は明らかである。この一文を取ってしまってもいいのではないか。	三重津海軍所跡の地下に埋まっている物全てが確認できているわけではないので、今後の調査で新たに出てきたものに関しては保存の対象にしていくという意味合いで書いている。伝わらないようであれば文章の表現を変えていきたい。	P60 「どのような遺構や遺物がどのような状態で埋まっているかを確認することはもちろんのこと、その正確や価値を明らかにするため」に修正した
19		P59、②の下から2行目“景観変化を一定の振幅の下に…”にある一定の振幅とはどの程度のものをイメージしているのか。	(内閣官房)景観の場合は現状の維持が非常に難しいので、一定の幅を持って、変化を許容しながら進めていく、あるいはコントロールする、修景する、景観形成をしていく方がいいという意味がある。わかりやすい言葉があれば言い換える。	P60 「景観変化による影響を最小限に抑制」に修正した
20		P60、①下から3行目“難しい状況にあることから…ならない”とは、周辺も含まれるのであれば護岸も含むので、浸水するだけでなく、洗掘されるということも考えた方がいいのではないか。	洗掘されるという状況は生まれにくく、逆に漂流物や泥が入ってくるということが考えられるので、浸水の方がより遺跡への影響度が高いという意味合いで書いている。	—
21	3章	P63、(1)5行目“普遍的な価値の証明に貢献する…位置づけられている”とあるが、登録後も「証明」という言葉が出てくるのは適当なのか。	英語の文脈上、証明という言葉を入れている。	—
22		P63、“試行錯誤の挑戦の…示す遺跡である”とあるが、試行錯誤の挑戦というよりは、試行錯誤の結果、造船技術が改良されてきたという具体的な様相ということではないか。	P25、明治日本の産業革命遺産の構成要素の位置づけにおいて、三重津海軍所跡は日本の近代化の成立を大きく3段階で整理した1段階目にあたるため、そのような表現としている。	—
23	5章	P74、5.1の7行目“不透水層を作らないように乾燥を防いで…”とあるが、「調査前と同じように、地下水位と還元状態を維持する」という表現にするべき。	—	P76 修正した
25	6章	P85、A、B案は、表面に中の骨組みのオルソを貼りつけるというイメージでいいのか。	全部をオルソ写真にはできない。部分では今使っているものがある。	—

第6回策定委員会 指摘事項と対応方針

資料①

No.	項目	主な意見(ページ番号は第6回資料)	事務局の回答	その後の対応(ページ番号は修正版)
24	8・9章	P85、比較表はA～Cくらいまで可能性のある3案を提示してはどうか。Bの次にするのは、Bの立体表示で、凹んでいる部分に水がある状態。3番目は、Bに少し水がくるイメージが適当で、C、D、Eのどれかを削って、無理なものは2案でいいのでは。そしてCに水を少し入れているものがあるって、水遊びができる、それは遺構の保全のために上から水を補給するというイメージで作ってはどうか。	—	実施設計の段階で、平面表示か立体表示を検討する際に検討する
26		木組みのすごさを見てもらえるように、もっと劣化しない素材で復元を考えたはどうか。	—	
27		お金はかかるだろうが、ホログラムか何かで復元するのが良い。いろいろな表示手法を検討した上で選択したというプロセスを残しておいた方がいい。	—	
28		見られないのか、という疑問に対し、きちんと計画書で答えておいた方がいい。	—	P88 委員会での議論の過程を掲載した
29		P84、ドライドックの見えない部分をどうするかという議論については、復元とどう切り分けられるのかという議論があったということは、どこかに注記を入れておいた方がいい。	事務局で検討する。	
30		P84、青字は議論のプロセスとして表現しておいた方がいい。	事務局で検討する。	
31		P87、金属加工関連遺構はAR・VRに頼らざるを得ないかもしれないが、ガイダンス施設との連携のような形で、造船・修船システムの中などを意識的に復元するなど、含みを持たせておいた方が今後展開しやすくなるのではないか。	—	P78「屋外展示」と「屋内展示」の持つ強みを生かして補完しあうことで相乗効果を生み出す「一体展示」を目指すことを追記した
32		推測によってドライドックの大きさを表示することについて、産業遺産あるいは世界遺産として妥当なのか。	地下に埋まっているものの理解を促進するための遺構の位置と形状の表現と考えると、遺跡の整備上もインタープリテーションの整備上も必要である。	P88 委員会での議論の過程を掲載した
33	P97～98、あえてボランティアという言葉が本文に出していないのか。	ボランティアをあえて書いていないのは、ボランティアに頼るつもりではないということである。ガイドの育成強化、研修、正確に伝える情報の選別も進めていくということを記載している。表現や構成を組み替えて伝わるようにしていきたい。	—	P101-104 8章を「8.1活用の考え方」と「8.2活用の取組」という項目に分けて記載した
34	2章P61の活用に関する課題の中で、①に対応した記述は多いが、②教育・啓発・観光プログラム、③ガイドプログラムに対する答えが欲しい。8-2に(2)を設けて、課題に対する答えを書き込んではどうか。	—		
35	P59の課題にある、調査研究の継続に示されたことを受けて、佐賀市の調査研究組織や人材育成があり、ボランティア育成につながる。2-6の課題に示されたことを盛り込む形で事業計画、活用計画を整理した方がいいのでは。	—		
36	記述がそれぞれのところで横に広がっているので、もう少し方法論を縦に一本通した方向で具体的に説明しながら、肉付けとして書かれていると分かりやすくなる。	—	P110 「9.2 事業の推進体制」に追記した	
37	史跡としての魅力をキープしていくため、新しい情報などを発信できるように恒常的な情報発信の体制をつくることも広い意味で活用計画の形だと思うので、調査・研究の継続のための具体的なプランがあるといい。	—		
38	P104、パースで表現されているのはドックをかなり深く掘って、遺構も見えないようである。平らな感じか。	オルソ写真を貼るイメージである。それほど深い表現ではないので、この辺の調整がまだかなり必要である。	P108 平面表示と立体表示の2パターンを表示し、立体表示のドックが深く見えないように修正した	